

4. 次世代教育

(1) 大学院教育

a. 教育目的と特徴

スラブ研究センターの研究部スタッフは、スラブ・ユーラシア地域研究の専門家養成を目的として、2000年度(平成12年度)から大学院教育に参加した。組織形態としてはセンターの研究部教授・准教授・専任講師全員が北海道大学大学院文学研究科の協力講座を構成し、歴史地域文化学専攻スラブ社会文化論専修という単位で大学院教育を行っている。複雑化する国際社会を理解するため、政治学、経済学、歴史学、文学といった個別のディシプリン(専門的学問分野)の研究ではなく、各ディシプリンの方法を取り込みつつもその枠を超えていく学際的な地域研究を目指すのが最大の特徴である。また、スラブ・ユーラシア研究における日本唯一の拠点研究機関としてのセンターのリソース、特に豊富な蔵書を教育に活用している。院生にセンターの外国人研究員(特任教員)をはじめとする外国人研究者と交流させ、国際的な研究者ネットワークへの参加を促し、国内外の学会での報告や現地調査・一次資料収集も支援している(後述)。センターの教員が行っているプロジェクトや国際シンポジウム等に参加させ、学術集会の運営に関わる経験を積ませるとともに、自主的な研究会の企画を奨励していることも特徴である。鈴川・中村基金奨励研究員((4)参照)として道外から来る大学院生との交流、ITP((6)参照)と連動しての英語研修への参加も、院生に刺激を与えている。

スラブ社会文化論専修の授業としては、各教員の専門分野にかかわるゼミ(特別演習)のほか、主に修士課程の学生を対象に、ロシア語・英語の訓練(文献講読)や、研究の基礎と方法の修得を目的とする特殊講義を開講している。また、「スラブ社会文化論総合特別演習」では、博士後期課程を含む院生全員が参加し、各自の研究報告、討論者によるコメント、全体討論を行っている。これは、学会報告を意識して制限時間内に簡潔にして要を得た発表を行う能力、他者の研究に対し建設的な批判・コメントを行い、また受けたコメントを自分の研究に活かす力を身につけさせる、当専修の特色ある授業である。

そのほか、北海道大学の大学院生全般を対象に大学院共通授業科目を開講し、研究科等の垣根を越えて、理系も含む大学院生に、スラブ・ユーラシア研究の基礎的素養を涵養し、学問的・社会的に重要なテーマを議論する機会を与えている。北大教員だけでなく他大学の研究者・実務家なども講師として招き、毎年8月初め頃と2月初め頃に集中講義の形式で開講している。

b. 入学者数

年度		2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
修士課程	一般	6	4	4	1	3	3	4	5
	社会人	0	0	1	2	0	0	0	0
	留学生	1	0	1	3	2	0	0	2
小計		7	4	6	6	5	3	4	7
博士後期課程	一般	2	1	1	1	3	0	1	0
	社会人	0	0	0	0	0	0	1	0
	留学生	1	2	1	1	1	1	1	1
小計		3	3	2	2	4	1	3	1
合計		10	7	8	8	9	4	7	8

c. 在籍者数

年度		2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
修士課程 1年	一般	5	4	4	1	3	2	4	5
	社会人	0	0	1	2	0	1	0	0
	留学生	1	0	1	3	2	0	0	2
修士課程 2年	一般	11	8	7	8	4	5	3	5
	社会人	0	0	0	0	2	1	1	0
	留学生	1	1	0	1	3	3	1	0
小計		18	13	13	15	14	12	9	12
博士後期 課程1年	一般	2	1	1	1	3	0	1	0
	社会人	0	0	0	0	0	0	1	0
	留学生	1	2	1	1	1	1	1	1
博士後期 課程2年	一般	6	2	1	1	1	3	0	1
	社会人	1	0	0	0	0	0	0	1
	留学生	0	1	2	1	1	0	1	1
博士後期 課程3年	一般	7	13	13	11	9	6	9	5
	社会人	0	1	0	0	0	0	0	1
	留学生	2	1	2	2	2	2	2	1
小計		19	21	20	17	17	12	15	11
合計		37	34	33	32	31	24	24	23

4. 次世代教育

d. 開講科目

授業科目	担当教員	授業題目	開講年度
スラブ社会文化論 特殊講義	岩下	ロシアとアジア	2006-2010
	ウルフ	Modern Russian History (Reading and Discussion)	2008
	ウルフ	Soviet History in Russia's 20th Century	2009、2011
	ウルフ	Imperial Russian History from Peter to Petrograd	2010、2012
	野町	スラブの言語文化	2009
	宇山・野町・ 荒井	スラブ・ユーラシア研究の基礎と方法	2010
	宇山・家田・ 岩下・ウルフ	スラブ・ユーラシア研究の基礎と方法	2011
	家田・望月・ 山村・ウルフ	スラブ・ユーラシア研究の基礎と方法	2012
	望月・田畑・ ウルフ	スラブ・ユーラシア研究の基礎と方法	2013
	岩下	ユーラシア境界研究	2011-2013
	野町	ロシア・東欧の言語と文化（露語文献購読）	2011、2013
	山村	転換期ロシアの経済と社会（露語文献購読）	2011-2013
	野町	スラブ言語文化研究概論	2010
	荒井	ロシア極東経済の国際統合（露語文献購読）	2008-2010
	ウルフ	ロシア近代史	2006-2007
	家田	東欧民族問題研究	2009
	望月	ロシアの文化	2006-2008、2012
宇山	中央アジアとロシアの歴史・社会	2006-2007	
スラブ社会文化論 総合特別演習	全員	スラブ・ユーラシア研究	2006-2013
スラブ地域文化論 特別演習	望月	近代ロシア文化思想史	2006-2008、2010
	宇山	中央ユーラシア地域研究	2006-2013
	望月	ロシアの文化	2009-2011、2013
	望月	ロシアの思想	2009-2013
	長縄	ロシア帝国論	2008-2013
	ウルフ	極東ロシア史研究	2007
	前田(弘)	コーカサス地域研究	2006-2007
スラブ地域社会論 特別演習	荒井	ロシアにおける連邦主義と地域経済	2006-2009
	田畑	スラブ・ユーラシア地域の経済	2006-2013
	松里	競争的権威主義体制の諸問題	2013
	松里	宗教と人文地政学	2009
	松里	ロシア以外の旧ソ連諸国の政治	2009
	松里	旧社会主義諸国の政治	2007-2008
	松里	ユーラシア宗教政治	2012
	松里	新制度主義から見た旧社会主義諸国の政治	2006
	荒井	ロシア経済における中央・地方関係	2010
	松里	ロシア帝国の西部辺境	2011
	松里	政治学としての総力戦体制論	2010
	山村	転換期ロシアの経済と社会	2006-2011
	山村	中央ユーラシアの経済	2006-2007
スラブ地域相関論 特別演習	家田	東欧民族問題研究	2006-2008
	家田	スラブ・ユーラシアの地域と環境	2010-2013
	野町	スラブ諸語研究	2009
	野町	スラブ諸語比較・対照研究	2011、2013
	野町	南スラブ諸語研究	2010
	野町	スラブ言語文化史	2012
	林	東欧比較政治研究	2010
	家田	東欧比較社会論	2006-2008
	林	東欧国際関係史	2006-2009

e. 大学院共通授業科目

年度	科目名	講師
2006	スラブ・ユーラシア学Ⅰ（中域圏、隣接世界、地球化）	岩下明裕、林忠行、家田修、松里公孝、田畑伸一郎、山村理人
	スラブ・ユーラシア学Ⅱ（地理認識と地域イメージ）	荒井信雄、望月哲男、宇山智彦、前田弘毅
2007	スラブ・ユーラシア学Ⅰ（ロシア帝国論の基礎）	松里公孝、志田恭子
	スラブ・ユーラシア学Ⅱ（北方の人文学）	望月哲男、津曲敏朗、加藤博文、佐藤知己、池田透、谷古宇尚
2008	スラブ・ユーラシア学Ⅰ（跨境する歴史と政治、跨境するアクター）	松里公孝、酒井啓子、高尾千津子、石井明、荒井信雄、家田修
	スラブ・ユーラシア学Ⅱ（歴史と空間表象）	望月哲男、林忠行、宇山智彦、前田弘毅
2009	スラブ・ユーラシア学Ⅰ（地域大国の比較）	田畑伸一郎、松里公孝、岩下明裕
	スラブ・ユーラシア学Ⅱ（多元的世界を理解する方法としてのイスラーム地域研究）	長縄宣博、宇山智彦、太田敬子、守川知子
2010	境界研究Ⅰ	岩下明裕、山田吉彦、古川浩司、佐藤学、白岩孝行、林忠行、ミハエル・アレクセエフ、堀江典生、セルゲイ・リャザンツェフ
	境界研究Ⅱ	池直美、宮本万里、川島真、鈴木一人、中村研一、マイケル・ハット、カロリン・リス
	スラブ・ユーラシア学Ⅰ（地域研究と国際協力の接点）	宇山智彦、北野尚宏、福田宏、内田一彦、下社学、グロムジョン・ボボソダ
2011	境界研究Ⅲ	岩下明裕、ディビッド・ウルフ、セルゲイ・セヴァスティヤノフ、松里公孝、ベアトリーチェ・ペナティ、宇山智彦、家田修、トマシュ・カムセラ、野町素己、福田宏、藤森信吉
	境界研究Ⅳ	酒井啓子、黒木英充、ムハンマド・ハッサン・ハニ、中村研一、アンボーン・ジラッティコーン、鈴木一人
	スラブ・ユーラシア学Ⅰ：ロシアの宗教（正教、イスラーム、ユダヤ教、チベット仏教、ペイガニズム）	松里公孝、長縄宣博、井上まどか、赤尾光春、荒井幸康、藤原潤子
2012	境界研究Ⅴ	岩下明裕、古川浩司、柏崎千佳子、アンジェロ・イシ、グレンダ・ロバーツ、窪田順平、イーゴリ・サーヴィン、バクトベク・ジュマグロフ
	境界研究Ⅵ	重政公一、井原伸浩、サム・バイトマン、池直美、ヨソソフ・アン
	ユーラシアにおける戦争の記憶と表象	望月哲男、越野剛、前田しほ、平山陽洋、向後恵里子、中野徹
2013	境界研究Ⅰ	岩下明裕、ポール・ギャンサー、ピクター・コンラッド、ポール・リチャードソン、フレデリック・クーパー、家田修、樽本英樹、柏崎千佳子、池直美、ジョエル・ブロッフェ、アレクサンドル・セルグニン、ラッシ・ハイニネン
	境界研究Ⅲ	岩下明裕、藤森信吉、高田喜博、大西広之、山上博信、古川浩司、小嶺長典、小濱啓由、小島和美、久保実、中川善博、織田敏史
	スラブ・ユーラシア学：環オホーツク海地域の経済と環境	田畑伸一郎、白岩孝行、山村理人、田畑朋子、本村眞澄、徳永昌弘

4. 次世代教育

f. 大学院生への各種助成制度

スラブ研究センターでは、大学院生の研究および成果発表を促進するために、スラブ社会文化論専修の院生を対象とした3種の助成事業を実施している。

1) 大学院生学会報告助成

国内・国外の学会が開催する大会・研究会議等で報告するための旅費を援助。往復の交通費全額、1泊2日以内(国外の学会の場合は2泊3日以内)の宿泊費・日当の規定額を助成。募集は随時。

2) 大学院生海外調査助成

海外での現地調査、資料収集等のための海外渡航旅費を援助。往復の交通費全額、12泊13日以内の宿泊費・日当の規定額を助成。募集は年に2回。

3) 大学院生国内調査助成

資料収集等のための、原則として1週間以内の国内旅行の旅費を援助。往復の交通費全額と、6泊7日以内の宿泊費・日当の規定額を助成。募集は年に2回。

g. 助成制度の実績

年度	学会報告助成		海外調査助成	国内調査助成
	国内	海外		
2006*	国内	海外	2	0
	9	2		
2007*	国内	海外	6	2
	2	2		
2008**	国内	海外	0	0
	0	0		
2009***	国内	海外	2	4
	4	2		
2010	国内	海外	4	2
	4	2		
2011	国内	海外	1	0
	3	5		
2012	国内	海外	1	1
	3	2		

*2006～2007年 …21世紀 COE プログラムを助成財源とする

**2008年 …大学院生助成を一時中止

***2009年～ …一般運営費交付金を財源とする

h. 日本学術振興会特別研究員（DC）

スラブ社会文化論講座の博士後期課程院生における日本学術振興会特別研究員への応募・採用状況と採択者のリストは、以下のとおりである。なお、これとは別に、21世紀COEとグローバルCOEの実施期には、特別枠により、特別研究員に採用された者がいるので、これによる採用者のリストも以下に示した。これらの特別枠による採用者の推薦は、それぞれのCOEプログラムのコアメンバー（センター以外の北海道大学教員を含む）の協議によって行われた。

1) 応募件数と採用状況

DC1

年度	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
在籍者数	0	0	0	0	1	1	1	0
継続	0	0	0	0	0	1	1	0
辞退	0	0	0	0	0	0	0	0
採用	0	0	0	0	1	0	0	0
応募	0	0	0	1	1	0	1	0

DC2

年度	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
在籍者数	0	4	3	1	1	1	2	3
継続	0	0	3	0	1	0	1	1
辞退	0	0	0	0	0	0	0	0
採用	0	4	0	1	0	1	1	2
応募	1	4	3	3	1	3	2	2

2) 特別研究員一覧

DC1

採用年度	氏名	研究課題	受入研究者	
2010年 ～ 2012年	中嶋哲平	コーカサスにおけるトルコ系ムスリム知識人の政治思想とその運動に関する研究	准教授	長縄宣博

DC2

採用年度	氏名	研究課題	受入研究者	
2007年 ～ 2008年	左近幸村	帝政期のロシア極東と東アジアの経済ネットワーク	教授	松里公孝
2007年 ～ 2008年	加藤美保子	ポスト冷戦期におけるロシアの多国間外交の展開とアジア太平洋地域主義	教授	岩下明裕
2007年 ～ 2008年	高橋沙奈美	ロシア正教をめぐる記憶から見る、ポスト・ソヴィエト社会の国民統合問題	教授	望月哲男

4. 次世代教育

2012年 ～ 2013年	齋藤祥平	ロシア人亡命者の思想ユーラシア主義:反社会ダーウィン主義から構造主義へ	教授	デイビッド・ウルフ
2013年 ～ 2014年	松下隆志	ソ連崩壊後の現代ロシア文学研究	教授	望月哲男

DC2 (21世紀COE/グローバルCOE)

採用年度	氏名	研究課題	受入研究者	
2007年	秋山徹	近代中央アジア遊牧社会の社会制度変容過程の研究—クルグズ人のマナプ制度を中心に—(21世紀COE)(DC2)	教授	宇山智彦
2009年 ～ 2010年	須田将	現代中央アジアにおけるシティズンシップ—境界と差異化の政治社会史—(GCOE)(DC2)	教授	宇山智彦
2011年 ～ 2012年	立花優	ポストソ連アゼルバイジャンの政治変容:旧ソ連地域における政治体制の事例研究(GCOE)(DC2→単位修得退学後PD)	教授	宇山智彦
2013年	井上岳彦	カルムイク人社会における仏教僧侶に関する研究(GCOE)(DC2→単位修得退学後PD)	教授	宇山智彦

i. 卒業後の進路

スラブ社会文化論の卒業生の進路は多様であるが、修士課程修了者は博士後期課程進学および民間企業への就職が多く、博士後期課程修了者は大学教員や日本学術振興会特別研究員など研究に関連する職に就くものが多い。なお、以下の表は修士課程修了の際の博士後期課程進学を除いて、現職を示している。

修士課程修了者

年度		2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	計	
就職	民間企業	1	2	0	3	1	0	3	10	
	公務員	国家公務員	1	0	0	0	1	0	0	2
		地方公務員	1	0	0	0	0	0	0	1
		教職	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他法人	0	0	1	0	1	3	1	6	
博士後期課程進学		1	2	2	3	1	3	0	12	
その他		1	1	0	0	0	1	0	3	
計		5	5	3	6	4	7	4		

博士後期課程修了・単位修得退学者

年度		2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	計	
就職	民間企業	1	1	1	0	1	0	0	4	
	公務員	国家公務員	0	0	0	0	0	0	1	1
		地方公務員	0	0	0	0	0	0	1	1
		教職(大学)	0	0	3	4	1	0	1	9
		教職(その他)	0	1	0	0	0	0	0	1
	その他法人	0	0	0	0	0	0	2	2	
	学術振興会特別研究員	0	0	0	1	1	0	0	2	
その他	0	0	0	0	1	0	0	1		
計		1	2	4	5	4	0	5		

4. 次世代教育

(2) 学位論文

センター教員が主査となって審査を行い、学位を授与された論文は以下のとおりである。

a. 提出件数

年度	博士論文 (課程博士)	博士論文 (論文博士)	修士論文	特定課題 演習	計
2006	0	0	6	0	6
2007	1	0	5	0	6
2008	1	0	3	0	4
2009	4	0	6	0	10
2010	1	0	3	1	5
2011	3	0	7	0	10
2012	1	1	4	0	6

b. 題目一覧

1) 博士論文

	年度	氏名	題目	主査
博士論文 (課程博士)	2007	金野雄五	ロシアにおける対外経済関係の自由化の一考察:多角的貿易自由化と地域経済統合の展開を中心として	田畑伸一郎
	2008	封安全	中国とロシアの経済・貿易関係の新展開	田畑伸一郎
	2009	劉旭	東シベリア～太平洋石油パイプライン建設と石油資源開発:その成果及び問題点の検証を中心に	荒井信雄
		山本健三	1860年代後半のロシア帝国におけるオストゼイ問題の浮上と隠蔽:バルト・ドイツ人批判とロシア・ナショナリズムの相関関係に関する考察	松里公孝
		天野尚樹	境界における帝国の論理:帝政期サハリンのイメージと実態	岩下明裕
		秋山徹	クルグズ遊牧社会におけるロシア統治の成立と展開:部族首長層マナプの考察から	宇山智彦
	2010	麻田雅文	中東鉄道経営史:ロシアと「満洲」、1896-1935年	デイビッド・ウルフ
	2011	高橋沙奈美	ソヴィエト・ロシアの「聖」なる景観:後期社会主義ロシアの文化状況における正教的遺産の役割	望月哲男
		倉田有佳	来日ロシア人漁業家ピリチの生涯:流刑の島から大いなる北の海へ	岩下明裕
		加藤美保子	冷戦後ロシアのアジア・太平洋外交と多国間主義:対欧米外交の文脈で	岩下明裕
2012	櫻間瑛	「クリャシェン」とは何か?ポスト・ソ連社会における民族=宗教集団のエスニシティと文化活動	宇山智彦	
博士論文 (論文博士)	2012	左近幸村	海域ロシアの形成:近代ロシアの海運と帝国の統合	松里公孝

2) 修士論文

	年度	氏名	題目	主査
修士論文	2006	櫻間瑛	「民族」の地位を求めて:ポスト=ソ連期ロシアにおける正教徒「タター」の活動と彼らをめぐる言説	宇山智彦
		笹村久美子	ロシアとウクライナの「国境を越えた地域協力」:ベルゴロド州とハリコフ州	松里公孝
		平塚慈	ルーマニア政治におけるマイノリティ:ロマの事例を中心に	林忠行
		三浦賢二	ルーマニアにおけるハンガリー人少数民族問題:自治をめぐって	家田修
		望月映子	ロシア・EU関係の一考察	岩下明裕
		劉旭	東シベリア石油パイプライン建設計画に見られる政府と企業の相互関係:ロシアおよび中国	荒井信雄
	2007	ウセーロヴァ・カムシャト	Comparative analyses of development of vertical integration and cooperation process in agro-food complex of Kazakhstan	山村理人
		竹村寧乃	ソ連初期ザカフカス連邦に関する研究	前田弘毅
		玉木修	近代クロアチア・イリリア期における学生運動	家田修
		寺田厚	Z.ムリナーシュと「プラハの春」	林忠行
		望月康次	アゼルバイジャンにおける国内避難民問題	前田弘毅
	2008	久岡加枝	グルジアにおける多声音楽の「発見」	長縄宣博
		秋月準也	ミハイル・ブルガーコフと「住居」:住宅委員会議長・住宅管理人を中心に	望月哲男
		森島康文	日本の対ロシア自動車輸出の拡大とロシア乗用車市場の展開	田畑伸一郎
	2009	斎藤祥平	言語学者H.C.トルベツコイのユーラシア主義 1920-1937:ソ連と社会ダーウィン主義への挑戦	デイビッド・ウルフ
		関根禎典	1916年に製造された日本製ロシア小型銀貨の経緯と背景	デイビッド・ウルフ
		高橋慎明	『地下室の手記』批評史研究:ミハイロフスキー『残酷な才能』とその受容	望月哲男
		松下隆志	脱構築から再構築へ:ウラジーミル・ソローキンのゼロ年代の創作をめぐって	望月哲男
		エンリク・マリク	中央アジアに対する日本の多国間外交:実質的な協力をめざして	宇山智彦
		牟田恭平	ハンガリーとスロヴァキアの西部国境沿い地域における跨境的労働力移動	家田修

4. 次世代教育

	2010	クラムスコイ・アレクサンドル	サハリン大陸棚における石油・天然ガス開発と州内でのその影響	荒井信雄
		ハン・ポリ	中央アジア高麗人の人生儀礼:「改宗と伝統」問題の考察	宇山智彦
		宮風耕治	ロシアSFの「第四の波」論:ウラジーミル・ポクロフスキを中心に	望月哲男
	2011	石黒太祐	チェコスロヴァキア「正常化」体制の統治システム:制度化と分極化	家田修
		アルチュシキナ・マリア	Development of oil and gas industry in the Sakha Republic: from the Soviet period to the present day	田畑伸一郎
		塚田愛	中央アジア労働移民問題に関する考察:送出国社会への影響を中心に	宇山智彦
		長友謙治	2000年代におけるロシアの穀物生産・輸出増加の要因と今後の課題:小麦を中心として	山村理人
		西原周子	ヴーク・カラジッチ以前のセルビア知識人コミュニティとキリル文字表記の変遷	野町素己
		野口健太	ロシアにおける国内向けガス価格の自由化を巡る諸問題	田畑伸一郎
		ビタバロヴァ・アセリ	中央アジアの対中国観:カザフスタンとタジキスタンにおける認識・言説を中心として	岩下明裕
	2012	恩田良平	ロシア, 中国, カザフスタンの相互関係:経済的影響力の分析	田畑伸一郎
		ゴルブノワ・エレーナ	ロシア極東における人口変化の要因と国家政策	田畑伸一郎
		中野智	重債務貧困国クルグズスタンの経済政策	宇山智彦
		山崎龍典	ペレストロイカ期におけるスポーツ団体制度改革ー労働組合の視点からー	松里公孝

3) 特定課題演習

	年度	氏名	題目	主査
特定課題演習	2010	平間惇也	レフ・カルサーヴィン(1881-1951)におけるリーチノスチ概念の研究:翻訳と注釈	望月哲男

(3) 学部教育

センターの教員は、大学院だけでなく全学教育や文学部でも授業を開講している。

全学教育

一般教育演習(フレッシュマンセミナー)

初年次の学生が大学のゼミ形式の授業に慣れることを目的として、出席者を20名程度に限定して開講されている。ここでは、文献の調べ方、グループ討論、プレゼンテーション、質疑応答、メモの取り方、レポートの書き方といった、大学での勉強に限らず何かを調査・報告する際に必要な技術を体験・習得することができる。近年の授業題目は以下の通り。

2013年度 1学期 原発事故と地域研究の課題:福島とチェルノブイリ(家田修)

2012年度 1学期 多民族社会について考える(長縄宣博)

2011年度 1学期 国際政治の中の中央アジア・カフカース:英文ニュースを読む(宇山智彦)

2010年度 2学期 ロシア文学の「奇妙な愛」(望月哲男)

総合科目(人間と文化)

この講義は、特定の主題を複数の学問領域あるいは具体的な地域から論じることを通じて、学生が今後、各自の研究テーマや活動分野を選択する際の参考にすることを期待して開講されている。数名の教員がリレー形式で講義を行うこともある。近年の授業題目は以下の通り。

2013年度 1学期 イスラーム世界とロシア(長縄宣博)

2012年度 1学期 ボーダースタディーズ(境界研究)入門(岩下明裕)

2011年度 1学期 ユーラシアにおける「境界」:その実態にズームイン!(池直美ほか)

2010年度 2学期 学際的な国境研究(荒井信雄ほか)

文学部

スラブ社会文化論

この講義は、スラブ・ユーラシアに関わる最新の研究動向とその課題について概観することを目的としている。

2013年度 2学期 南スラブ・バルカン言語文化研究入門(野町素己)

2012年度 2学期 東スラブ人の言語と文化(野町素己)

2011年度 2学期 西スラブ人の言語と文化(野町素己)

2010年度 1学期 ロシア帝国史概論(長縄宣博)

2010年度 2学期 バルカン半島の言語と文化(野町素己)

また文学部では、「スラブ社会文化論」以外に、「ロシア文学史概説」などの授業をスラブ研究センターの教員が担当することもある。

2011年度 1学期 ドストエフスキーとトルストイ:表現の方法をめぐって(望月哲男)

4. 次世代教育

(4) 鈴川・中村基金奨励研究員制度

人文・社会科学の諸分野で、スラブ・ユーラシア地域を研究対象とする北海道外の若手研究者に助成金を提供し、スラブ研究センターにおける施設・資料の利用、及び研究員との共同研究をうながすことによって、スラブ・ユーラシア地域研究の振興を図ることを目的とする。助成対象は、原則として国内の国・公・私立大学の大学院博士(後期)課程に在籍する者(外国籍の者も含む)であり、毎年若干名を採用している。

この制度は日本における若手研究者の研究水準の向上、研究交流の促進、センターの全国共同利用の促進など、大きな効果を及ぼしている。

a. 助成金概要

・鈴川研究奨励基金(略称鈴川基金)

篤志家鈴川正久氏(1915-2004)がスラブ地域に関する総合的研究の振興のため、1985年にセンターにご寄付下さった基金である。センターでは、鈴川氏のご意志に添うよう、学術交流に対する助成、スラブ地域に関する研究者・研究調査に対する助成のために、同基金を運用している。この奨励研究員制度は、同基金活用の一環として、1987年度から始められた。

・中村研究奨励基金(略称中村基金)

ロシア・東欧の地理学を専門とされる中村泰三氏が同じくスラブ地域に関する総合的研究の振興のため、2006年にセンターにご寄付下さった基金である。センターでは、1987年度から始まった鈴川基金の高い評価に鑑み、2006年度より鈴川基金に合わせて、鈴川・中村基金奨励研究員制度として運用することにした。

b. 応募件数と採用状況

年度	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
応募	9	11	13	6	5	6	12	6
採用	6	6	4	5	3	4	5	3※

※2013年度は、採用決定は4名であったが、辞退者があったため採用実績は3名

c. 鈴川・中村基金奨励研究員一覧

年度	氏名	所属	滞在期間	専攻分野・研究テーマ	ホスト教員
2006	生田真澄	神戸大学大学院文化科学研究科・博士課程	2006.7.24～8.10	帝政ロシアにおけるムスリム知識人のイスラーム改革思想	宇山智彦
	木寺律子	大阪外国語大学大学院言語社会研究科・博士課程	2006.7.2～7.18	19世紀ロシア文学:ドストエフスキーにおける罪の意識の問題	望月哲男
	ヤロスラフ・シュラトフ	慶応義塾大学大学院法学研究科・博士課程	2006.10.3～10.20	日露戦争後から第一次大戦にかけての日露関係	デイビッド・ウルフ
	角田耕治	早稲田大学大学院文学研究科・博士課程	2006.9.7～9.14	詩法とA.C.プーキンシンの詩学	望月哲男
	長島大輔	東京大学大学院総合文化研究科・博士課程	2006.7.17～7.28	ユーゴ社会におけるナショナリズムと宗教:60-70年代のボスニアを中心に	家田修
	村上亮	関西学院大学大学院文学研究科・博士課程	2006.7.17～7.31	オーストリア・ハンガリー帝国統治下のボスニア・ヘルツェゴヴィナ	家田修

4. 次世代教育

2007	奥彩子	東京大学大学院総合文化研究科・博士課程	2007.7.27～8.05	旧ユーゴスラヴィア地域における文学研究	望月哲男
	笠谷知美	大阪市立大学大学院文学研究科・後期博士課程	2007.7.4～7.20	ビザンツ・アルメニアにおけるパウロ派異端運動	前田弘毅
	佐藤圭史	九州大学大学院比較社会文化学府・博士後期課程	2007.9.26～10.14	バルト諸国とモルドヴァにおける民族問題	松里公孝
	島田智子	関西大学大学院文学研究科・博士後期課程	2007.12.01～2.21	ウクライナにおける「ソユーズ」概念の生成	松里公孝
	地田徹朗	東京大学大学院総合文化研究科・博士課程	2007.7.04～7.24	トルクメン運河建設計画とソ連地理学者の役割	宇山智彦
	山田徹也	早稲田大学大学院文学研究科・博士課程	2007.9.14～9.25	ロシア・フォークロア・民間信仰(妖怪について)	望月哲男
2008	粕谷典子	早稲田大学大学院文学研究科・博士後期課程	2008.9.11～9.19	19世紀ロシア文学・イヴァン・トゥルゲーネフの小説技法	望月哲男
	木裕子	大阪大学大学院言語文化研究科・博士後期課程	2008.9.01～9.20	社会言語学・ウクライナにおける言語調査及び関連資料における「母語」の扱いについて	野町素己
	渡辺圭	国立国会図書館支部図書館・非常勤職員/千葉大学大学院社会文化科学研究科・博士後期課程	2009.2.07～2.15	ロシア教会史、ロシア宗教思想史・フィラレト・ドロズドフの宗教観を考察し、ロシア正教会の神学の形成に対する「静寂主義」の思想の影響について検討する	長縄宣博
	巽由樹子	東京大学大学院人文社会系研究科・博士課程	2008.12.07～12.22	「近代ロシアの絵入り雑誌と読者」・20世紀初頭カザンにおける読書	松里公孝
2009	仲津由希子	東京大学大学院総合文化研究科・博士課程	2009.11.16～12.4	19～20世紀ポーランド政治思想史	松里公孝
	新井正紀	千葉大学社会文化科学研究科・博士課程	2009.7.06～7.17	ソ連邦の文化政策史、特に少数民族に対する文化政策や教育事業について	松里公孝
	坂中紀夫	神戸市外国語大学外国語学研究科・博士課程	2009.9.18～10.02	ロシア史。18・19世紀ロシアのナショナリズムの発生と流行について	望月哲男
	岩崎理恵	東京外国語大学大学院地域文化研究科・博士後期課程	2009.7.16～7.25	銀の時代を代表する詩人アレクサンドル・ブロークの創作について(詩を中心に)	望月哲男
	亀田真澄	東京大学大学院人文社会系研究科・博士課程/ザグレブ大学哲学科・大学院博士課程	2009.11.01～11.22	旧ユーゴスラビア地域のアイデンティティ・ポリティクスとマイノリティの問題	野町素己
2010	志田仁完	一橋大学経済研究所附属ロシア研究センター・研究支援推進員	2010.8.2～8.20	ソ連邦構成共和国第二経済発展の決定要因分析	田畑伸一郎
	藤本尊正	大阪大学言語社会研究科・博士後期課程	2010.9.6～9.24	19世紀後半、ウラジオストクの衛生と住民	デイビッド・ウルフ
	鈴木健太	東京大学大学院総合文化研究科・博士課程	2011.1.21～2.10	1980年代後半のセルビアのナショナリズムと民主主義	家田修
2011	千葉美保子	関西大学大学院文学研究科・博士課程後期課程	2011.9.1～9.21	近世ロシアにおける外国人居留者とその居住空間について	長縄宣博
	机文明	法政大学大学院政治学研究科・博士後期課程	2011.12.5～12.25	ソ連の外交史全体の中において対日外交がいかなる位置づけであったかの解明	岩下明裕
	近藤大介	一橋大学大学院言語社会研究科・博士課程	2011.9.1～9.16	ゴーゴリ作品とブルガーリンを中心とした1830年代のジャーナリズムに関する研究	望月哲男
	高橋知之	東京大学大学院人文社会系研究科・博士課程	2011.10.20～11.5	プーシキンやレールモントフ、ドストエフスキーの作品におけるナポレオンの表象についての研究	望月哲男

4. 次世代教育

2012	岡本佳子	東京大学大学院総合文化研究科・博士課程	2012.7.23 ~ 8.5	世紀転換期プダベシユトの歌劇場の機能を国民オペラ受容の観点から分析	家田修
	神竹喜重子	一橋大学大学院言語社会研究科・博士課程	2012.7.20~8.9	マーモントフ・オペラ劇場でのセルゲイ・ラフマニノフの人的交流	望月哲男
	ヴィクトル・ゴルシコフ	京都大学大学院経済学研究科・博士後期課程	2012.7.3 ~ 7.17	銀行制度の発展とロシアの多国籍銀行の海外進出	田畑伸一郎
	高田映介	京都大学大学院文学研究科・博士後期課程	2012.9.2 ~ 9.17	『谷間』を中心とするチェーホフ農村三部作と19世紀後半のロシア社会状況の関連	望月哲男
	宮崎淳史	東京外国語大学大学院地域文化研究科・博士後期課程	2012.11.1 ~ 11.16	チェコのシュルレアリスムと他の作品との比較検討と芸術家本人のテキスト分析	野町素己
2013	Sandrovych, Tymur	京都大学大学院文学研究科・博士後期課程	2013.8.2 ~ 8.19	ソ連における日本の「家族」のイメージ	越野剛
	岡野要	京都大学大学院人間・環境学研究科・博士後期課程	2013.8.26~9.8	南スラヴ諸語の移動動詞の意味体系について(ダイクシス、接頭辞、移動の様態の問題を中心に)	野町素己
	大石侑香	首都大学東京大学院人文科学研究科社会人類学教室・博士後期課程	2013.9.2 ~ 9.17	19世紀後半から現在にかけての西シベリア北方諸族の土地・環境利用に関する政策史とそれへの反応	長縄宣博

(5) ポスドク制度

スラブ研究センターでは、財源が異なる様々なポストドク制度を提供している。非常勤研究員は、北海道大学から配分される財源に基づき、毎年1名～2名が採用される。この他に21世紀COE(2003-2007年度)、新学術領域研究(2008-2012年度)、グローバルCOE(2009-2013年度)といった大型の競争的資金により雇用される研究員制度もある。これらは原則として、任期2年である。さらに、センターの教員を指導教員とする日本学術振興会特別研究員PDやRPDなどがある。

a. 21世紀COE研究員の応募件数と採用状況

年度	2006	2007
応募件数	17	非公募
採用件数	6	3

b. 非常勤研究員の応募件数と採用状況

年度	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
応募件数	非公募*	非公募*	7	8	6	非公募	17	16
採用件数	1	1	1	2	2	2	2	2

2006年度と2007年度は、非常勤研究員の定員がセンターに付けられるかどうか年度初めまで不明であったため、21世紀COE研究員で採用された者をこのポストに移した。2011年度は、2010年度採用者が継続して採用された。

c. 非常勤研究員一覧

氏名	任期	専門	現職
永山ゆかり	2006.4 ～2007.3	アリュートル語(チュクチ・カムチャツカ語族)	北海道大学大学院文学研究科北方研究教育センター・助教
赤尾光春	2007.4 ～2008.2	文化人類学、ユダヤ文化研究、イディッシュ文学	大阪大学大学院文学研究科・助教
木山克彦	2008.3 ～2009.3	考古学(極東ロシア・中国東北部地域の先史・古代史)	スラブ研究センター・特任助教
青島陽子	2009.12 ～2010.3	19世紀ロシア史、教育史	神戸大学大学院国際文化研究科国際文化学部・講師
前田しほ	2009.4 ～2009.12	20世紀ロシア文学、ジェンダー研究	スラブ研究センター・グローバルCOE共同研究員
草野佳矢子	2009.4 ～2010.3	ロシア近代史	早稲田大学文学学術院・非常勤講師
井上暁子	2010.5 ～2012.3	ドイツ・ポーランド越境文学	スラブ研究センター・グローバルCOE共同研究員
瀧口順也	2010.5 ～2012.3	ソ連共産党(ボリシェヴィキ)史	龍谷大学国際文化学部・講師
立石洋子	2012.4 ～2013.3	ソ連における自国史像の変遷	首都大学東京・日本学術振興会特別研究員PD
本田晃子	2012.4.1～	ロシア建築	スラブ研究センター・非常勤研究員
辛嶋博善	2013.4.1～	文化人類学、モンゴル牧畜社会の研究	スラブ研究センター・非常勤研究員

4. 次世代教育

d. 21世紀COE研究員一覧

氏名	任期	専門	現職
永山ゆかり	2005.4 ～2006.3	アリュートル語(チュクチ・カムチャッカ語族)	北海道大学大学院文学研究科北方研究教育センター・助教
荒井幸康	2005.4 ～2007.3	モンゴル・ブリヤート・カルムイクの言語政策	グローバルCOE・共同研究員
赤尾光春	2006.4 ～2007.2	文化人類学、ユダヤ文化研究、イディッシュ文学	大阪大学大学院文学研究科・助教
大串敦	2006.4 ～2007.3	政治学、ソ連崩壊過程の研究	慶應義塾大学法学部・准教授
菊田悠	2006.4 ～2007.3	文化人類学	日本学術振興会・特別研究員
志田恭子	2006.4 ～2008.3	歴史学、ロシア近代史	不明
長尾広視	2006.4 ～2007.9	ソ連の政治社会史・外交史(1930年代末～60年代初頭)	在トルクメニスタン大使館・専門調査員
長縄宣博	2007.4 ～2007.7	ロシア帝国のムスリム社会と国家との相互関係に関する研究	スラブ研究センター・准教授

e. 21世紀COE特任研究員

氏名	任期	専門	現職
毛利公美	2006.4.1 ～2007.3.31	亡命ロシア文学、現代ロシア文化	上智大学外国語学部・非常勤講師
青島陽子	2007.4.1 ～2008.3.31	19世紀ロシア史、教育史	神戸大学大学院国際文化学術研究科国際文化学部・講師

f. 日本学術振興会特別研究員(PD・RPD) 応募件数と採用状況

PD

年度	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
在籍者数	1	3	3	3	3	3	4	3
継続	1	1	2	2	2	2	2	3
辞退	0	0	1	0	0	0	0	0
採用	0	2	2	1	1	1	1	0
応募	5	9	9	5	3	2	2	0

RPD

年度	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
在籍者数	0	0	0	0	0	1	1	1
継続	0	0	0	0	0	0	1	1
辞退	0	0	0	0	0	0	0	1
採用	0	0	0	0	0	1	0	1
応募	0	0	0	0	1	1	1	2

g. 日本学術振興会特別研究員（PD・RPD）一覧

PD

採用年度	氏名	研究課題	受入研究者		現職
			職名	氏名	
2012年 ～ 2014年	中山大将	日本帝国崩壊後の樺太植民地社会の変容解体過程の研究	教授	岩下明裕	在籍中
2012年 ～ 2014年	高橋美野梨	境界研究から見る「北極」-デンマークの北極圏戦略と媒介項としてのグリーンランド	教授	岩下明裕	在籍中
2011年 ～ 2013年	森下嘉之	国民国家の形成期における地域社会の変容と住民:20世紀中東欧を事例に	教授	家田修	在籍中
2010年 ～ 2012年	宮崎悠	公共宗教と国民形成の政治力学:ポーランド・ナショナリズムとカトリック教会	教授	林忠行 →家田修 (変更)	成蹊大学法学部 助教
2009年 ～ 2011年	安達大輔	近代的読書メディアとしてのロシア・ロマン主義文学研究:「社交界小説」を中心に	教授	望月哲男	東京理科大学/ 首都大学東京 非常勤講師
2008年 ～ 2010年	佐藤圭史	ソ連末期における民族問題マトリョーシカ構造の実証研究	教授	松里公孝	外務省・在外公館 専門調査員
2007年 ～ 2008年	菊田悠	中央アジア定住地帯の秩序の再編成プロセスにおけるイスラーム聖者と聖性の役割	教授	宇山智彦	在籍中 (※RPDとして)
2007年 ～ 2009年	大串敦	ソ連末期における統治機構崩壊の総合的研究	教授	松里公孝	慶應義塾大学 法学部 准教授
2005年 ～ 2007年	越野剛	チェルノブイリ原発事故とベラルーシ・ロシア・ウクライナにおける原子力の表象の歴史	教授	望月哲男	スラブ研究センター 准教授

RPD

採用年度	氏名	研究課題	受入研究者		現職
			職名	氏名	
2011 ～ 2013	菊田悠	現代中央アジアのイスラーム女性の信仰実践の変容と再イスラーム化へのインパクト	教授	宇山智彦	在籍中

※現職は2013. 10. 1現在

4. 次世代教育

h. 新学術領域プロジェクト研究員一覧

氏名	所属班	所属期間	現職
任哲	第2班	2009.4～2009.9 2010.8～2011.3	日本貿易振興機構アジア経済研究所・研究員
星野真	第3班	2009.4～2013.3	早稲田大学政治経済学術院・助教
黛秋津	第4班	2009.4～2010.3	東京大学大学院総合文化研究科・准教授
小松久恵	第5班	2009.4～2013.3	追手門学院大学国際教養学部アジア学科・講師
住家正芳	第6班	2009.4～2011.3	立命館大学産業社会学部・准教授
楊成	第2班	2009.10～2010.7	華東師範大学・准教授
福田宏	第4班	2010.4～2011.12	京都大学地域研究統合情報センター・助教
三輪博樹	第2班	2011.4～2013.3	中央大学法学部・兼任講師
前田しほ	第6班	2011.4～2013.3	北海道大学スラブ研究センター・GCOE 共同研究員
高本康子	第4班	2012.3～2013.3	北海道大学スラブ研究センター・地域比較共同研究員

i. 新学術領域博士研究員一覧

氏名	所属班	所属期間	現職
越野剛	総括班	2009.4～2010.3	北海道大学スラブ研究センター・准教授
後藤正憲	総括班	2009.7～2011.3	北海道大学スラブ研究センター・助教

j. 新学術領域外国人研究員

氏名	所属班	所属期間	現職
ジェイコブ・ハッ ピーモン	第1班	2009.12～2010.2	School of International Studies, Jawaharlal Nehru University • Assistant Professor
シャムシャド・アフ マド・ハーシ	第1班	2010.12～2011.2	Institute for Defence Studies and Analyses(India) • Research Assistant
モニカ・チャンソリ ア	第1班	2012.1～2013.3	Center for Land Warfare Studies(India) • Senior Fellow
エレナ・イコンニ コヴァ	第6班	2012.1～2012.3	Sakhalin State University • Professor

k. 新学術領域プロジェクトアシスタント

氏名	所属班	所属期間	現職
加藤美保子	第1班	2009.4～2010.3	北海道大学スラブ研究センター・共同研究員
高橋沙奈美	第4班 第6班	2009.5～2009.11 2009.12	北海道大学スラブ研究センター・助教
劉旭	第1班	2010.4～2011.5	中国人民大学国際関係学部・講師
鄭齊兒	第1班	2011.10～2013.3	Department of Chinese as a Second Language, National Taiwan Normal University • post-doctoral research fellow

※現職は 2013.10.1 現在

l. グローバルCOE 博士研究員・学術研究員一覧

グローバル COE 博士研究員	グローバル COE 学術研究員
藤森信吉 (H21.7.1～H23.3.31)	井濶裕 (H21.10.1～H26.3.31)
木山克彦 (H21.11.1～H24.9.30)	平山陽洋 (H21.10.1～H26.3.31)
	宮本万里 (H21.10.1～H23.3.31)
	地田徹朗 (H23.4.1～H26.3.31)
	花松泰倫 (H23.6.1～H26.1.31)

4. 次世代教育

(6) 国際的な研究活動支援

日本学術振興会の若手研究者インターナショナル・トレーニング・プログラム(ITP) は、我が国の大学院学生(博士課程、修士課程)、ポスドク、助教等の若手研究者が海外で活躍・研鑽する機会の充実強化を目指し、そのため我が国の大学が、一つないし複数の海外パートナー機関(大学、研究機関、企業等)と組織的に連携し、若手研究者が海外において一定期間教育研究活動に専念する機会を提供するものである。センターは、ITPの「博士号取得後のスラブ・ユーラシア研究者の能力高度化プログラム: 跨境的アプローチと比較分析」プログラムの2008～2012年度実施組織として採択された。

本事業は、英語圏の権威ある査読誌に恒常的に投稿できる卓越した若手研究者の中核を事業期間中に形成することを目標とした。派遣先は、ハーヴァード大学デイヴィス・センター、ジョージ・ワシントン大学エリオット校・欧・露・ユーラシア研究所、オックスフォード大学セント・アントニー校という世界最高水準の英語圏の研究所とした。派遣者には、派遣期間中の有力国際学会でのパネル組織、英語圏査読誌への投稿、パートナー組織の協力の下で中規模のセミナーを行うことが義務付けられた。また、狭義の派遣・留学だけではなく、派遣前の英語合宿や帰国後の海外での研究成果の発表への援助(英文校閲等)も含む長期的な訓練プログラムも提供された。応募対象を、スラブ・ユーラシア地域専門家に限定せず、中国、欧州、国際自然環境問題などの専門家も派遣した。これは、地域研究の相互乗り入れという近年の動向に対応したものであり、「ユーラシア地域大国の比較」のようなセンターが推進する大規模プロジェクトと軌を一にするものであった。

派遣者だけでなく、日本の若手スラブ・ユーラシア研究者のうち、将来性が高いと判断された20～25名程度の国際性をさらに高めることを目標とし、英語合宿および英語論文執筆講習会を行なった。

英語合宿: 平成20年度～23年度、計4回開催(平成24年度も一般運営財源により開催した)

英語論文執筆講習会: 平成20年度と平成23年度、計2回開催

以上のような活動の結果、若手研究者が国際学会で報告し、論文を国際的な査読雑誌に投稿する習慣が定着した。5年間のITP事業期間中に、本事業に参加した約60名の若手研究者(派遣者16名、その他44名)によって、154件の国際学会での報告がなされ、57本の原稿が国際的査読雑誌に掲載・採択された。スラブ・ユーラシア関係の重要な国際会議では、日本の若手研究者が顕著な存在感を示すようになった。たとえば、2010年7月にストックホルムで行われた国際中欧・東欧研究協議会の世界大会では日本人53名が報告を行ったが、そのうち21名はITP参加者であった。しかもそのうち3名は単なる報告者ではなくパネルを組織した。北米のスラブ学会AAASS(ASEEES)では、派遣者・非派遣者あわせて2008年に1名、2009年に1名、2011年に6名、2012年に4名が報告した。2009年以降、東アジアのスラブ・ユーラシア研究者コミュニティは、毎年大会を開催しているが、そこでのITP若手の報告数は第1回(札幌)で14名、第2回(2010年、ソウル)で8名、第3回(2011年、北京)で6名、第4回(2012年、コルカタ)で5名であった。

a. ITPによる海外派遣者一覧

年度	期間	氏名	採用時所属	現在所属	派遣先
2008	2008.6.19～ 2009.3.28	半谷史郎	愛知県立大学・非常勤講師	愛知県立大学外国語学部・准教授	ハーヴァード大学デイヴィス・センター
	2008.6.10～ 2009.3.28	杉浦史和	帝京大学・助教	帝京大学経済学部経済学科・准教授	ジョージ・ワシントン大学 欧・露・ユーラシア研究所
	2008.8.21～ 2009.8.22	乗松亨平	首都大学東京・非常勤講師	東京大学大学院人文社会系研究科・助教	オックスフォード大学聖アントニー校
	2008.8.21～ 2009.8.22	平松潤奈	東京大学・非常勤講師	金沢大学 外国語教育研究センター・准教授	オックスフォード大学聖アントニー校
2009	2009.8.25～ 2010.6.11	浜由樹子	津田塾大学・研究員	津田塾大学国際関係研究所・研究員	ハーヴァード大学デイヴィス・センター
	2009.6.25～ 2010.3.31	溝上宏美	京都大学・聴講生	志學館大学人間関係学部・講師	オックスフォード大学聖アントニー校
	2009.9.30～ 2010.7.17	任哲	北海道大学・研究員	日本貿易振興機構アジア経済研究所・研究員	ジョージ・ワシントン大学 欧・露・ユーラシア研究所
2010	2010.8.2～ 2011.3.24	青島陽子	北海道大学スラブ研究センター・非常勤研究員	神戸大学国際文化学部・講師	ハーヴァード大学デイヴィス・センター
	2010.7.18～ 2011.5.29	中村真	無所属(大阪大学大学院文学研究科博士課程学位取得)	大阪大学・招聘研究員	オックスフォード大学聖アントニー校
	2010.8.8～ 2011.5.27	花松泰倫	総合地球環境学研究所・プロジェクト研究員	スラブ研究センター・グローバルCOE 学術研究員	ジョージ・ワシントン大学 欧・露・ユーラシア研究所
2011	2011.6.29～ 2012.3.31	佐藤圭史	北海道大学スラブ研究センター・GCOE 共同研究員	外務省・在外公館専門調査員	ハーヴァード大学デイヴィス・センター
	2011.8.20～ 2012.6.18	加藤美保子	北海道大学スラブ研究センター・GCOE 共同研究員	スラブ研究センター・共同研究員	オックスフォード大学聖アントニー校
	2011.7.18～ 2012.5.3	劉旭	北海道大学スラブ研究センター・学術研究員	中国人民大学国際関係学部・講師	ジョージ・ワシントン大学 欧・露・ユーラシア研究所
2012	2012.3.6～ 2012.4.3	宮川絹代	東京大学・非常勤講師	東京大学大学院総合文化研究科・非常勤講師	ハーヴァード大学デイヴィス・センター
	2012.3.10～ 2012.3.30	井上まどか	清泉女子大学・非常勤講師	清泉女子大学文化史学科・専任講師	ジョージ・ワシントン大学 欧・露・ユーラシア研究所

4. 次世代教育

	2012.6.20～ 2013.3.28	ヤロスラブ ・シュラトフ	北海道大学スラブ 研究センター・ GCOE 共同研究員	広島市立大学国際 学部・講師	ハーヴァード大学デ イヴィス・センター
	2012.7.10～ 2013.3.21	赤尾光春	大阪大学・招聘研 究員	大阪大学大学院文 学研究科・助教	オックスフォード大学 聖アントニー校
	2012.7.1～ 2013.3.31	麻田雅文	北海道大学スラブ 研究センター・ GCOE 共同研究員 (学術振興会特別 研究員)	東北大学東北アジ ア研究センター・教 育研究支援者	ジョージ・ワシントン 大学 欧・露・ユーラ シア研究所
	2012.8.19～ 2012.9.23	宮川絹代	東京大学・非常勤 講師	東京大学大学院総 合文化研究科・非 常勤講師	ハーヴァード大学デ イヴィス・センター

※現職は 2013.10.1 現在

b. ITPによる派遣者が企画・運営した研究会・国際ワークショップ

氏名	開催日	研究会等の名称	開催場所
杉浦史和	2009.3.5	Dynamics of Business-Government Relations in Russia: Before and After the Crisis	ジョージ・ワシントン大学 欧・露・ユーラシア研究所
平松潤奈 乗松亨平	2009.3.15	Cultural Creation of “Russian Reality”	オックスフォード大学 聖アントニー校
任哲	2010.2.18	China and Russia: A Comparative Perspective of Local Government	ジョージ・ワシントン大学 欧・露・ユーラシア研究所
	2010.2.23	Two Helsinkis: The U.S-Helsinki Commission and the Helsinki Process (CSCE Process) in the Cold War	
浜由樹子	2010.2.1	Eurasianism: Genealogies, Evolutions and Interpretations	ハーヴァード大学デ イヴィス・センター
溝上宏美	2010.1.18	Immigration and National Identity in British History-Europe, Empire and Commonwealth	オックスフォード大学 聖アントニー校
	2010.12.10	Imperial Past and Migration in East and West: Bridging Japan, Eurasia and Britain	大阪ブリーゼプラザ
青島陽子	2010.12.10	Imperial Perspectives on Social Transformation: Re-Examining <i>Soslovia</i> in the Wake of the Great Reforms	ハーヴァード大学デ イヴィス・センター

花松泰倫	2011.3.4	Environmental Cooperation in Northeast Asia: Challenges and Prospects	ジョージ・ワシントン大学 欧・露・ユーラシア研究所
中村真	2011.2.16	Conflict and Coexistence of Ethnic and National Identities in Russian, Central and East European Music	オックスフォード大学 聖アントニー校

加藤美保子	2012.2.8	Origins, Emergence and Development of Russia's Multilateralism in the Asia-Pacific Region (1986 – 2012)	オックスフォード大学 聖アントニー校
劉旭	2012.3.16	Russia's Energy Policy: Domestic and Foreign Dimensions	ジョージ・ワシントン大学 欧・露・ユーラシア研究所
佐藤圭史	2011.12.5	Comparative Analysis of Ethnic Political Mobilization: Non-titular Nations versus Titular Nations in the Former Soviet Republics	ハーヴァード大学ディヴィス・センター
	2012.2.3	Violence and Reconciliation around Ethnic Boundaries in the Caucasus Region	
	2012.2.16	Comparative Analysis of Political Mobilization of Russian Speakers at the End of the Soviet Era: Case Studies of North East Estonia and Transnistria	カリフォルニア大学サンタ・バーバラ校
	2012.7.4	International Workshop for Junior Scholars	北海道大学スラブ研究センター
麻田雅文	2013.1.25	On the Front Line in the Far East: The Chinese Eastern Railway and Russo-Chinese-Japanese Relations, 1905-1935	ジョージ・ワシントン大学 欧・露・ユーラシア研究所
ヤロスラブ・シュラトフ	2013.1.29	Transitions and Turning Points in 20th-century Russo-Japanese Relations: 1917, 1945, 1991	ハーヴァード大学ディヴィス・センター
赤尾光春	2013.2.11	Religion and Jewish Identity in Contemporary Russia	オックスフォード大学 聖アントニー校